

第3学年 社会科学習指導案

日 時 平成22年10月1日(金) 5校時
児 童 男7名 女7名 計14名
指導者 熊谷 勇 一

1 単元名 『調べよう物をつくる仕事』～ミニトマトをつくる仕事～

2 単元の目標

- 地域の農産物の様子に関心をもち、生産に従事している人々の仕事の工夫や努力について意欲的に追求することができる。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 地域の農産物の生産・出荷の面から、工夫や努力をしていることを見学したことや資料などをもとに考えることができる。
(社会的な思考・判断)
- 生産に関わる情報を収集し、その特色について見学や聞き取りなどをもとにして調べ、自分なりの表現で表すことができる。
(観察・資料活用の技能・表現)
- 農産物の生産や出荷における工夫や努力、生産活動に従事する人々の願いなどが分かる。
(社会的な事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) 児童について

職業体験については、家庭や地域に田んぼや畑が多くありながらも農作物の生産に直接関わったことのある児童は少ない。そこで、農家の作業は断片的には分かるものの、具体的な手順や「何のために行うのか」については、経験のある子であってもまだまだ分からない状況である。

また、1年生、2年生の時にはジャガイモや大根や人参のほかにも、個人でメロン・ミニトマト・サツマイモ・とうもろこし・きゅうりを作る経験をしてきている。しかし、ものをつくるということを仕事にすることの苦労や工夫、喜びというものを理解できている児童は少ない。

(2) 教材について

本単元は、学習指導要領第3学年および第4学年の目標(1)「地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。」を受けて設定されたものである。地域の重要な生産活動の特色と工夫について理解させること、生産活動を通じた他の地域などとの関わりに気づかせることをねらいとしている。そこで、学校の近くにある藤里のミニトマト農家や、出荷に関わる園芸センターを見学する計画を自分たちで立てるとともに、見学を通して野菜(ミニトマト)づくりに取り組む人々の様子や工夫、野菜を通じた地域とのつながり、作った野菜を売るための努力等をとらえさせていく。また、地域の生産活動に携わる人の話や考え方に触れる活動を通して社会的なものの見方や考え方を広げ深めることができるようになることが期待できる。

家族や地域の人々の仕事を取り上げることは、人との関わりを学ぶ上でより抵抗なく学習に入れるとともに、気軽に聞いたり何度でも見に行ったりできるよさもあると考える。

(3) 指導について

指導の手順としては、まず、学校の周りの探検を通して気付いたことから、身近な地域で作られている作物や働く人に目を向けさせるようにする。そこから、ミニトマト農家で働く人(学級の児童の祖父)の様子を取り上げ、ミニトマト作りについてさらに詳しく調べてみようとする関心・意欲を高めていく。

見学の際には、計画作りの段階から児童の知りたいことや疑問を大切にしながら話し合い、栽培方法、収穫量、働いている人の様子など見学の視点をはっきりさせておくようにする。

調べた内容については、自分たちが見たこと聞いてきたことをもとに、カードにまとめるこ

とで、情報を整理する力をつけるとともに、新たな課題が出やすいように活用していく。なお、身近でありながらも農作物の生産に直接関わることが少ない児童の実態を考慮し、一つひとつの作業の手順や意味・つながりについては丁寧に説明をし、より具体的に理解できるようにしていきたい。

また、農家で働く人々の工夫や努力については、児童にとって「何のためにそうしているのか」なかなか理解しにくい部分である。そこで、消費者としての「見た目がいい」「おいしい」「いつでも」という願いから、生産者としての工夫や努力に結びつけるとともに、できるだけ分かりやすいキーワードを使いながら考えさせていきたい。

まとめにあたっては、ミニトマト作りの工夫や努力を学んだことを生かしながら、地域に根ざしたより良い野菜作りをめざす農家の努力に目を向け、これからの農業のあり方を考えるきっかけとしたい。さらに、農家の人たちの生き方や考え方に共感する気持ちから、地域の一人として、また、消費者の一人として、地域の野菜作りの発展を願う心情や態度へとつなげていきたい。

(4) キャリア教育との関わりについて

キャリア教育に関わる3学年のテーマは、『身近な人（家族・友達・地域の人）から学ぼう』である。

本単元では、キャリア発達に関わる能力のうち、次のような能力を育成できると考える。

【コミュニケーション能力】

○よりよい作物を作ろうとする農家の工夫や努力と自然条件や消費者のニーズ等を関連付けて考え、話すことができる。

【情報収集・探索能力】

○分からなかったことや疑問に思ったことを質問したり、様々な施設・設備を調べたりして、野菜づくりや出荷に関わる仕事について分かろうとする。

【職業理解能力】

○ミニトマト農家や集荷場（園芸センター）で働く人の工夫や努力を聞くことで、野菜が自分たちのところに届くまでには様々な仕事があることを理解し、働く人の思いを感じ取ることができる。

【選択能力・課題解決能力】

○ミニポスターや感謝の手紙を書く活動を通して、必要な情報を選択し、相手に伝えたいことを分かりやすく表現しようとする。

4 単元の構想

◎は重点

過程	時間	主な学習活動	キャリア教育との関わり									
			かかわり つたえる		しらべ、 きづく		ゆめやきぼう をもつ		かんがえ きめる			
			自	他	情	職	役	計	選	課		
第1次	1	○藤里ではどんな農作物が作られているのかを調べる。 ・地区探検をして、藤里地区で作られている農作物を見つける。			○							
第2次	2	○ミニトマトづくりの様子について畑を見学したり、話をうかがったりして調べる。 ・ミニトマト畑を見学に行く計画を立てる。		○					○			
	3 4	・小澤さんのミニトマト畑を見学して仕事の内容や、工夫を調べる。		◎	○	○						

	5	・見学したことをカードに表す。	○						
第3次	6	○採れたミニトマトは、どこへ、どのように運ばれていくのかを調べる。 ・園芸センターを見学に行く計画を立てる。		○				○	
	7	・園芸センターを見学して、ミニトマトの選別や出荷の様子を施設の人の話を聞きながら調べる。	○	◎	○				
	8	・見学したことをカードに表す。	○						
	9	○ミニトマトをつくるための工夫や努力をまとめる。 ・農事暦を作る。 ・見学カードをもとに、働く人の工夫や努力を話し合っまとめる。		○		◎	○		○
第4次	10(本時)			◎		○			
	11	○ミニトマトの出荷や売するための工夫や努力をまとめる。 ・採れたミニトマトのゆくえを流れ図に表す。		○		◎	○		○
第5次	12	・カードや流れ図をもとに様々な施設や地域のつながりを考える。					○		○
	13	○ミニトマト農家の学習をもとにミニポスターや感謝の手紙を書く。	○				○		◎
第6次	14								

5 本時の指導

(1) 目標

ミニトマト農家では、さまざまな工夫をして、たくさんのミニトマトを作っていることを考えることができる。

(2) 評価規準

評価規準	具体の評価規準		手立て
	十分満足できる	概ね満足できる	
◆ミニトマトをたくさん作るための生産者の工夫や努力を考えることができる。 【思考・判断】 (学習シート・発言)	ミニトマトをたくさん作りたいという生産者の願いに気づき、さまざまな工夫や努力をしていることを考え、まとめている。	自分の見学記録から大事だと思う生産者の工夫を選び、その説明や、大切だと思う理由を書いている。	生産者の工夫がないと何が困るのかを考えることで工夫のよさに気づかせる。

(3) キャリア教育の視点

◇よりよい作物を作ろうとする農家の工夫や努力を、見てきたことや聞いてきたことをもとに、自分なりの根拠を持って話し、友だちの意見をしっかり聞くことができる。

【コミュニケーション能力】

◇身近で働く農家の人々が、よりよい作物を作ろうと様々な工夫や努力をしていることに気付く。

【職業理解能力】

(4) 展開 (10 / 14時)

段階	学習内容と活動	指導上の留意点	備考・評価 (◆教科◇キャリア)
つかむ 5分	<p>1 これまでの学習を振り返る。 ○家庭菜園と小澤さんのハウスのミニトマト1つの苗の収穫量を知る。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>小澤さんは、たくさんミニトマトを作るためにどのような工夫をしているのだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭菜園と小澤さんのハウスのミニトマトでは1つの苗から採れる数が小澤さんのハウスのほうが多いことを知る。 本時の流れを確認する 	<p>ミニトマト 1パック ミニトマトの写真</p> <p>課題の紙板書</p>
ふかめる 30分	<p>3 予想する。 ○たくさん作るためにどんな工夫をしていると思うか予想する。</p> <p>4 一人学び ○たくさん作るための工夫とそのわけを考え、学習シートに書く。 ・水の管理 ・土作り</p> <p>5 学び合う ○自分が考えた工夫、その工夫がなぜ大切なのかを発表する。</p> <p>○グループで「一番大切な工夫」は何かを話し合う。</p> <p>6 確かめる ○小澤さんにたくさんミニトマトを作るために一番大切なことを話してもらい、確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今までの小澤さんの話、畑の見学、園芸センターの見学をもとにして、たくさん作るための工夫を考えさせる。 どのような工夫か書いたら、その工夫がなぜ大切なのかを考え、学習シートに書かせる。 たくさん作るための工夫とそのわけを発表させる。 発表された工夫の中からたくさん作るために一番大切な工夫は何かをグループで話し合わせる。 たくさん作るために一番大切な工夫について話してもらい、また、工夫の中で児童が気づけなかった工夫や努力について話してもらい。 	<p>見学カード</p> <p>学習シート ◇よりよい作物を作ろうとする農家の工夫や努力を、見てきたことや聞いてきたことをもとに、自分なりの根拠を持って話し、友だちの意見をしっかり聞くことができる。 【コミュニケーション能力】 (発言) (学習シート)</p>
まとめる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>小澤さんは、(土づくりや水のかん理) などさまざまな工夫をして、(たくさん) のミニトマトを作ろうとしている。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 板書のたくさん作るための工夫に着目させて、自分なりのまとめを書かせる。 	<p>◇身近で働く農家の人々が、よりよい作物を作ろうと様々な工夫や努力をしていることに気付く。</p>

<p>10分</p>	<p>○安全面について考える。</p> <p>8 振り返る。</p> <p>9 次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん作るためには、肥料や農薬をたくさんやってはどうか考えさせ、小澤さんに確かめる。 ・本時の学習で気づいたこと友だちの話を聞いて思ったことを振り返らせる。 ・小澤さんの作ったたくさんのミニトマトのゆくえをまとめることを知らせる。 	<p>【職業理解能力】 (学習シート)</p> <p>◆【思考・判断】 (学習シート) (発言)</p>
------------	---	---	--

(5) 板書計画



